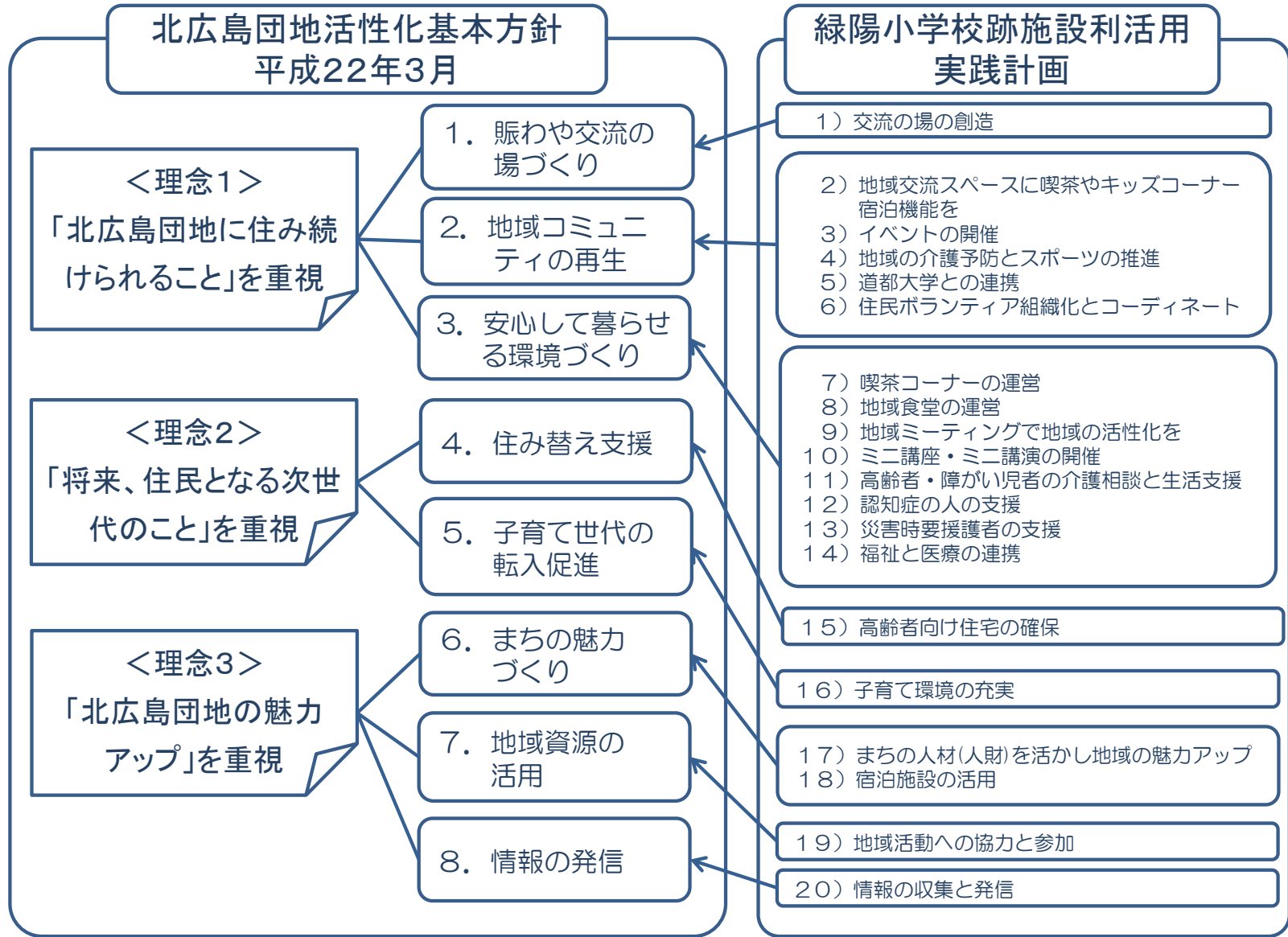


地域の活性化への貢献に関する提案

北広島市において、平成22年3月につくられた北広島団地活性化計画の基本方針に3つの理念があります。一つは「北広島団地に住み続けられること」、二つ目は「将来、住民となる次世代のこと」、三つ目は「北広島団地の魅力アップ」についてであります。当法人は、これらの理念のもと、小学校跡施設が持つ特性を有効に活用し、下記に示す取り組みを実践することで、地域の活性化に貢献いたします。



1) 交流の場の創造

提案内容

小学校跡施設を活用した交流の場づくりを地域の人と共に実践します。トリムコースにつながるエルフィンパーク交流広場・広葉小学校跡施設利活用などのエコミュージアム等の社会資源や隣接する公園の自然などを含む環境を大切にする取り組みや自然学習などの取り組みなど学校跡施設をキーステーションとしてつながりを創造して参ります。

実践報告

・平成25年12月（オープンの4ヶ月前）から、地域の方々と共に「ともに市民スタッフの会」を立ち上げ、地域のつながり、支え合いのために、「ともに」を拠点として何ができるのかを話し合ってきました。オープンセレモニーの企画・実施も行い約700名もの来場がありました。また、平成25年9月から喫茶コーナーをオープンし、地域の方々も多数来場いただいています。



工事中の建物見学



市民スタッフミーティング



オープニングセレモニー



喫茶コーナー

2) 地域スペースに喫茶やキッズコーナー、宿泊機能を

提案内容

地域交流スペースは、全体で525㎡となります。内訳は、喫茶コーナー（95㎡）、活動室1（72㎡）、活動室2（88㎡）、活動室3（64㎡）、活動室4（32㎡）、活動室5（32㎡）、物品庫（14㎡）、管理事務室（64㎡）、トイレ（手洗い・給湯）（64㎡）で、管理事務室及びトイレは兼用となります。喫茶にキッズコーナーを配置し、活動室1、2、3は、宿泊できるようにします。

実践報告

- ・活動室・体育館・宿泊の利用状況は別紙参照してください。
- ・キッズコーナーでは、地域の子育て世代が遊びに来たり、奇数月に子育て支援センターと連携して出張保育（まーぶるひろば）を実施しており、世代を超えて楽しんでいます。



活動室4・5



レストラン・喫茶コーナー



体育館



キッズコーナー

3) イベントの開催

提案内容

喫茶コーナー、活動室、体育館を活用して、第4住区地域のお茶の間などの地域の人たちと連携し、コンサート、演劇、落語、手品や季節のイベントを開催します。定期的なイベントの開催は、同じ趣味・嗜好をもつ地域の方々の出会いの場や、再会を楽しみにする場になります。また、イベントが活発化することにより、企画・運営する地域の方のやりがいにつながり、主体的活動が活発化します。

退職後の第二の人生で親しい友人がいない人、配偶者や友人に先立たれ一人で生活している人、子供と同居せざるを得なくなり友人のいない知らない土地に来た人などの、孤独を感じ、人とのつながりを強く求めている人たちが、定期的なイベントに参加することで自然と出会い、そしてつながっていきます。「この年になって友達ができると思わなかった。」「あの人と出会えて毎日が楽しい。」このような声が聞こえてくる空間にしたいと考えています。

実践報告

・毎月1回（土）活動室にて、「第4住区地域のお茶の間」と連携して、お茶会を中心に、各種講座、コンサート、体操などを開催しています。地域の方々、ともに生活している方々が一緒に盛り上がり交流を図っています。



地域のお茶の間
スカットボールで楽しく健康に！



地域のお茶の間
みなみ支援センターの脳体操！

4) 地域の介護予防とスポーツの推進

提案内容

小学校跡施設の特性である体育館・グラウンドなどを活用して、地域の人たちだけではなく道内外の人たちが、バスケットボール・バレー・卓球・バトミントン・野球・サッカー・ソフトボール・ランニングや冬は歩くスキーを楽しむことができる場として子供の健全育成、障がい者の社会参加など地域のスポーツを応援します。また、体育館にトレーニングマシンを設置し、地域の方々の生活習慣病予防や介護予防と機能回復に取り組み、超高齢時代を楽しく生活できるよう支援します。

実践報告

・体育館、グラウンドは、各種サークル団体、スポーツ少年団、障がい者団体、地域の小学生（放課後利用）などが、市内外から利用されています。
・毎週2回（水・土）とともに生活されている方々を対象に介護予防体操を実施していますが、今後は地域の方々も参加頂けるように企画中です。



ともに健康体操
毎週（水・土）開催中です！



スポーツ吹き矢
呼吸法が健康の秘訣です♪



道内唯一の車いすラグビーチーム
道都大学生と交流♪



よりづかチョイスポ倶楽部
ジュニアスポーツ塾

5) 道都大学との連携

提案内容

北広島市にある道都大学には、社会福祉学部・美術学部があります。地域交流スペースを美術学部の協力により絵画を展示したり、イベントへの協力、スポーツ系活動部と連携した障害者スポーツの推進、子育て世代の活動・支援を保育を目指す学生と連携、地域の課題解決や地域の魅力を創造する活動などを、知識・技術を持った大学教授や、若さとパワーを持った学生と、地域の人々、自治体と連携することで地域の活性化を進めていきます。

実践報告

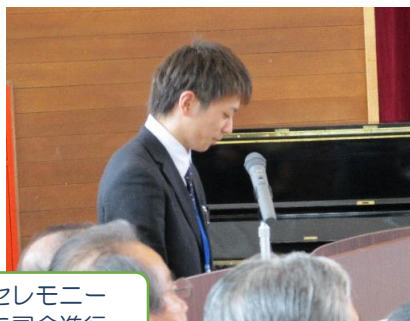
- ・道都大学生には、ともに開設準備から「ともに市民スタッフの会」のメンバーとして現在も関わってもらっています。現在も障がい者スポーツ団体の体育館利用や大学で開催されるイベント参加など、ともに地域と大学の橋渡し役として活躍してもらっています。
- ・今後も地域の課題解決や地域の魅力を創造する活動に、継続的に参画してもらおう関係を築いて地域の活性化に取り組んでいきたいとおもいます。



市民スタッフミーティング
若さみなぎる道都大学生と一緒に！



オープニングセレモニー
大学生と一緒に司会進行



6) 住民ボランティアの組織化とコーディネート

提案内容

小学校跡施設で行う活動は地域の人たちの主体的・積極的な参加が意味をなすものであり、「人と人とのつながりから生きることの喜びを知ろう！」をテーマとして、地域の人たちと共に学び、共に語り、共に喜び、共に地域力を高める活動を実践していきます。地域には「人のために何かをしたいけど、どこへ行って何をしたら良いかわからない」「この部分だけ手伝ってくれたら、この家で生活できるんだけど・・・」という人が沢山います。このような方々のためにも、地域の人と一緒に、人と人をつなげる活動をしていきます。そして、この共生の理念を理解した地域の人たちと共に、仲間を誘い増やし、安心して生活のできる喜びある豊かな地域社会となるよう努めて参ります。“支え合いから生きることの喜びを感じることができる価値”を大切に、住民ボランティアの組織化を積極的に進めて参ります。

実践報告

- ・住民ボランティアによる「ともに市民スタッフの会」のメンバーは、徐々に仲間を増やし現在21名となっています。市内に在住のボランティア（個人、団体）の方々とともに、地域の方々自身が様々なことに取り組み、誰もが健康に、安心して暮らす事ができる街づくりを目指す活動を今後も進めていきます。
- ・「北広島市自立支援ボランティア制度」登録の方々には、昨年10月から四恩園各事業所で活躍いただいています。



北広島市自立支援ボランティア講習
受講者との、四恩園見学交流会



市民スタッフ募集

7) 喫茶コーナーの運営

提案内容

喫茶コーナーは地域の方々が中心になって運営します。地域の方が地域の人に喜んでもらうために、こだわりのコーヒーや手作りお菓子などを提供したり、喫茶コーナーを綺麗な花や手作りの小物で飾ったり、掃除をしたり、一人で来られた方とゆっくり会話を楽しんだり、利用した人から「ありがとう」「とても美味しかった」「落ち着く空間ですね」「あなたがいてと思って来てみました」「あなたの人柄で癒されます」という生の声が返ってくるような、“人のために何かしたいと活動する人の思い”を大切にしたいと考えています。

実践報告

・平成25年9月からスタートした喫茶の営業は、2月から営業日を一日増やし週2回（月・水）となりました。ともに生活されている方々と地域の方々との交流が始まり、喫茶が地域における交流の場としての役割を担いつつあります。



ハロウィン♪



市民スタッフの笑顔に癒されます♥

8) 地域食堂の運営

提案内容

調理室の資源を生かし、ボランティアの協力のもと、食事を提供します。一人暮らしの人が地域の人と一緒に、会話を楽しみながら食事をとることが出来たり、調理をすることが困難な方に、温かい心のこもった手作りの食事を提供し、一人暮らしの人が増えて行く状況において、「家族ができたみたいだ」「みんなで食べるとご飯がおいしい」という家族のぬくもりを感じる事が出来る地域食堂にしたいと考えています。

実践報告

・喫茶では、軽食（プチココアロール、おにぎり各種、卵スープ）を販売しています。

9) 地域ミーティングで地域の活性化を

提案内容

子ども・子育て世代・高齢者・障がい児者などの地域の人を中心に、道都大学、商店、企業の方々と一緒に、地域の課題解決に取り組み、住み良い楽しい地域をつくりまします。この取り組みを継続しながら、住民主導の活動が活発化するようコーディネートします。“世代や障がいを超えた交流と、協働することの価値”を体感できる機会にしたいと考えています。

実践報告

・現在3つの販売業者の協力を得て、ともに内で移動販売を行っています。地域の方々にも徐々に浸透しており、住みよい地域づくりに今後も貢献していきます。
・継続的地域協議を契機に、地域の課題解決にむけて、地域の方々や社会資源と連携しながら住み良い楽しい地域をつくりまします。



子供がみんなを笑顔に一つにつなげます



ショッピングつむら新鮮野菜とつけき隊



さやのちゃんのパン



ヤクルト販売

10) ミニ講座・ミニ講演の開催

提案内容

毎月2回程度、法人の持つ専門的な社会資源と知識・経験を活かし、福祉や医療の講座を開催します。少人数制のミニ講座の開催により、参加者の方の個別のニーズに対応し、地域の方が生活に必要な知識・技術を提供すると共に、地域の方が抱えている課題を一緒に考えて行く場になります。

実践報告

・平成27年2月21日に講師を招いて講座を開催します。別紙参照してください。今後は来年度より定期的にミニ講座を開催していきます。



11) 高齢者・障がい児者の介護相談と生活支援

提案内容

孤立化する地域の人々のつながりの構築や生活課題の解決に向け、緑陽小学校跡施設で事業を行う、居宅介護支援事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所・複合型サービス・認知症対応型共同生活介護事業・サービス付き高齢者向け住宅の専門的知識と経験を有する職員が、生活相談、介護保険法・障害者自立支援法や介護全般の相談、認知症の方やその家族への支援、医療相談、施設入所の住み替え相談など、幅広く地域の人たちの相談に対応します。

実践報告

・今後も、当法人が有する事業所をあげて、サービスを必要とする方々やそのご家族、地域を支えていく取り組みを継続していきます。



四恩園職員です

12) 認知症の人の支援

提案内容

地域の人、北広島市高齢者支援課・地域支援センター、小学校跡施設で事業を行う居宅介護支援事業所・複合型サービス・認知症対応型共同生活介護事業が連携し、地域で暮らす認知症の方とその家族を支えます。「徘徊する家族が心配で目が離せない」「大切な家族を受け入れてくれる施設がない」「少しでも良いから介護から離れて休みたい」という訴えに対応するためにも、認知症サポーター養成講座により認知症サポーターを積極的に養成して、認知症の正しい理解と対応について地域に啓蒙し、地域の人と一緒に、認知症になっても安心して暮らすことのできる地域づくりに努めます。

実践報告

・平成26年度の認知症サポーター養成講座は、小学校、中学校、銀行、その他団体で開催し、受講者は11団体463人でした。この活動は認知症支え合いセンターを中心に福祉に従事する方々がボランティアで行っています。この取り組みは平成18年からスタートし、講座受講者は3,800人を超えました。

・当施設からも下記のとおり講師を派遣しています。

美しい街づくり（15名）、緑が丘小学校（56名）、市民後見人養成研修（21名）北広島市役所新人職員（19名）、東部小学校4年生（72名）

1 3) 災害時要援護者の支援

提案内容

災害時要援護者の方々が安心して暮らすことのできる仕組みづくりを、住民、北広島市、法人三位一体となって検討していきます。災害時要援護者の方々の具体的避難支援プランを、本人を中心に近隣住民、北広島市、法人で作成し、それを基に避難訓練を行うなど、緑陽小学校跡地が位置する第4住区を中心とした取り組みができるよう努めます。日頃から、災害時要援護者であっても顔の見えるつながりを構築できるよう努めます。

実践報告

・単一自治会をモデル地区に実践し、各地域に啓蒙していきたいと思えます。合同の避難訓練や、レスキューキッチン使用した豚汁で交流会を行うなど、楽しく、つながりをつくりながら地域の防災、支え合いの仕組みをつくっていきたくて考えています。

1 4) 福祉と医療の連携

提案内容

今後到来する超高齢社会に向けて、福祉と医療の連携のもと北広島市における地域包括ケアシステムの構築の一翼を担います。医療機関との連携と法人の持つ知識と経験を生かして、介護が必要になっても住み慣れた地域で生活を続けられるよう、小地域における包括的在宅ケアの仕組みを構築できるよう努めます。

実践報告

・北広島市と連携のもと、地域包括ケアシステムの構築を一層進めていきます。

1 5) 高齢者向け住宅の確保

提案内容

小学校跡施設にサービス付き高齢者向け住宅31室と、認知症対応型共同生活介護事業18室を建設します。今後、認知症の人の増加や、一人暮らしや高齢者のみ世帯が増加するとされる北広島市の課題と、そこに住む地域の人々の不安に対応するために、サービス付き高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護事業への住み替えを含めた、介護と生活全般の課題に対応します。

実践報告

・北広島市団地高齢化率は40.0%を超えました。今後も認知症の人や一人暮らし高齢者などの生活課題に対応していきます。

	定員	入居者	平均年齢	平均要介護度	待機者
グループホーム	18人	18人	89.2歳	2.40	20人
サービス付き高齢者向け住宅	31室	34人	82.7歳	2.44	6人

1 6) 子育て環境の充実

提案内容

キッズコーナーや活動室などを活用し、子育て支援センター・NPOなどの子育て支援団体と連携しながら定期的なイベントを開催します。また、当事者である子育て世代や地域の人々が中心となり、イベント・講座の開催・地域活動など、子育て世代に魅力ある地域にするための取組みを一緒に行います。子育て応援のまちをつくるために、地域の子育てする親御さんと、地域の宝である子どもを地域で支える拠点にしたいと考えています。

実践報告

・キッズコーナーでは、地域の子育て世代が遊びに來たり、奇数月に子育て支援センターと連携して出張保育（まーぶるひろば）を実施しています。



まーぶるひろば
世代を超えた楽しい交流♪

17) まちの人材（人財）を活かした地域の魅力アップに

提案内容

北広島市には素晴らしい知識・技術・経験をもった貴重な人材がたくさんおられます。その方々と連携しながら、北広島市の誇る自然や動物、農業、文化、歴史などの市民講演会を定期的に関催します。そして、これらの地域の財産を次世代に継承する取組を地域の人と一緒にしていきます。この取組みを継続することで、北広島市の人の森をつくっていきます。

実践報告

- ・ともに市民スタッフの会と協力し検討していきます。

18) 宿泊施設の活用

提案内容

地域の人たちだけではなく道内外の人たちが利用することができる宿泊施設にします。トリムコース沿い出来るエコミュージアム（広葉小学校跡利活用）や、北広島市の森・花・鳥・農業・文化・歴史などのまちの魅力を発見する宿泊体験、スポーツ合宿、企業の宿泊研修などに活用できる場をつくります。小学校跡利活用により、子供の健全育成、障がい児者の自立と社会参加、生活習慣病予防や介護予防、世代間交流など、北広島市の魅力を発信して参ります。

実践報告

- ・宿泊状況報告。別紙参照してください。
- ・グラウンドに東屋（ガゼボ）設置しました。「大志さくら会」の方々が、東屋周辺に桜の苗木を植樹してくれました。いろいろな方々に、ともに活動室、体育館、グラウンドを有効に活用していただき、自然豊かな北広島市の魅力を発信していきます。



活動室が落ち着く宿に早変わり♪

19) 地域活動への協力と参加

提案内容

今後も地域の活動や取り組みに積極的に協力・参加していきます。第4住区自治会、児童民生委員、地区社会福祉委員会、単一自治会などで行っているイベントや取り組みを応援します。

実践報告

- ・第4住区夏祭りへは毎年四恩園として参加させていただき、地域の方々と一緒に楽しませて頂いております。また、ともに体育館で開催された「夏祭り盆踊り練習会」へは、入居者も楽しんで参加されていました。
- ・第4住区自治連合会、児童民生委員、地区社会福祉委員会、緑陽町の自治会の打合せ等で活動室をご利用の場合は無料でご提供させていただきます。

20) 情報の収集と発信

提案内容

地域向け情報誌の定期的発行とホームページを活用して、小学校跡施設でのイベントや取り組みと北広島市の魅力を、地域の人たちだけではなく道内外の人たちにも情報発信します。生活、趣味、介護などの情報や生活に役立つ情報を提供し、地域の人たちの役に立つ喜ばれる情報を発信します。

実践報告

- ・毎月1回ともに通信を発行しています。
- ・ともにブログを公開しています。
[Http://tomoni.doorbiog.jp](http://tomoni.doorbiog.jp)



ともに通信 毎月発行